

山口県文書館所蔵史料案内(二)

庄屋文書(29~35)
武家文書(36~53)

29 山根家文書

玖珂郡玖珂町阿山上 山根均一 原蔵
寄託 昭和40年10月10日 一九六六

山根家は岩国領玖珂市の年寄・目代・副戸長。玖珂市は山陽往還筋の宿駅で山根家はその本陣に当てられていた。文書は、「役用覚日記」をはじめ、「御本陣方諸控」「御旗本御下宿割帳」「御伝馬仕法書」「人足支配帳」など宿駅関係の記録、それに「三町録」「三市仕組立諸控」「阿山市戸籍付立」「阿山分田方取調帳」など、江戸時代から明治初めにかけての当地の状況を知るには欠かせない。

所蔵資料案内

30 清水家文書

防府市富海 清水清子 原蔵
寄託 昭和32年7月 四六六

徳山領富海村において庄屋役、永代町年寄格を勤め、永代苗字帯刀を許され後には永代下土下等として士族に取り立てられる。文書は藩より下された「永代名御免御書附」「身柄一代帯刀永代町年寄格御書附」「永代下土下等御奉書」「御賞美御書附」など奉書類が大部を占めている。その他明治期の「公私諸記録」「醸造向諸願伺届諸控」などの記録類がある。

31 柳原家文書

山口市鰯石一 金井崮山気付 柳原ハルエ原蔵
寄託 昭和41年8月4日 六六

柳原家初代は大島郡沖家室に住居。天保三年、厚狭毛利家の梶浦開作築立に際し、柳原新兵衛は開作本締役となり築立に従事する。梶浦開作は馳走開作の形をとりながらも、開立地の分与を条件に開立銀主を募集しており「御開作新築立に付借り出金覚(安政四)」に出銀の状況を確認することができる。その他、「開作日誌(天保六)」「御開作用控(天保一二)」「安政四年三番日記控」「安政三年海陸懐中鏡」があり築立の様子を記録する。なお、梶浦開作については厚狭毛利家文書(当館所蔵)に関連史料がある。

32 荒瀬家文書

山口市平川 荒瀬知雄 原蔵
寄贈 昭和47年12月1日 三四点
荒瀬家は山口市平川平井村、神村氏の給庄屋役を勤む。文書は文久二年から大正三年までの「加調米取立帳」及び天保四年から明治二十三年までの「大福帳」「米銀出入控簿」からなる。

34 六連島漁業協同組合史料

下関市彦島町 六連島漁業協同組合 原蔵
寄贈 昭和40年11月12日 三三点
下関港北の入口に当たる六連島漁協に保管されていた史料。寛永三年から昭和十三年に至る間の漁村関係史料がみられる。その中で藩政期の史料は約一〇点であり、貢租の減免願や教通の海難船の届出書類がある。明治以降はすべて漁業組合関係書で、特別漁業・専用漁業の出願書や、漁業慣行調査の控書などがある。この六連島と隣島黒島の間が県界となっていたため、漁業区紛争が多発している。これについては、明治三十一年と昭和十三年の一件記録がある。

33 徳田家文書

吉敷郡井関村 徳田讓甫 原蔵
寄贈 昭和47年12月14日 一一〇点
徳田家は小郡宰判井関村に於て庄屋役を勤め、明治期には村長、郡・県会議員、衆議院議員など歴任した。小三郎代にはいわゆる「庄屋同盟」の一員として活躍。文書には庄屋役当時の公的文書である「小郡勘場地下役人録」「井関村内水論覚」などが多く、明治期のものには「井関村采地返上所御内務」「溜池新築一件」など村政史料がある。
なお諸隊参加の証たる小郡郷勇隊「肩章」も残されている。

35 木部家文書

豊浦郡豊田町一の瀬 木部アサ子 原蔵
寄託 昭和46年4月7日 二六七点
前大津宰判殿敷村一の瀬の地方文書。一ノ瀬は貞享以来、雜賀氏の給地となり、木部家は同地で代々庄屋役、畔頭役を勤めた。文書は村治史料を主とし、大部分が文政以降、幕末にいたるものである。文書中、前・先大津宰判内異船警備のため夫役、出勤の仕度を沙汰した嘉永年中、異船防禦手当の史料が目をひく。また、領主の領内巡見の達書もあり、その他の文書とあわせ給領地支配の一端を把握できる。

36 厚狭毛利家文書

東京都江東区亀戸町一ノ二七 故毛利一彦 原蔵
寄託 昭和8年9月29日および19年8月2日 四七点
毛利元就の五男元秋を始祖とする厚狭毛利家は、当初一万石を与えられたいわゆる一門の家柄であるが、歴代当主の多くは早世したこともあって治績は思うにまかせなかった。収蔵文書は、朝鮮出兵に関する秀吉朱印状一〇通や輝元書状二五通など近世初期の文書および、代々力を注いだ梶浦開作に関する記録など近世末期の史料よりなる。なお、県下における明治女子教育の先達といわれる勅子は第十代元美の夫人である。

38 柏村家文書(国司家臣)

楠町万倉 万倉先賢記念館 堀山久夫 原蔵
寄託 昭和40年10月10日 七〇点
柏村家は萩藩家老国司家の家老であつてその封邑万倉に居した。したがつて国司家自体あるいはその領政に関する文書記録が多いのが特色である。国司家関係のものとしては、同家感状判物、歴代略伝記など、家臣関係では明治初年の「家来分限帳」「旧藩国司家中従軍功勞仕出控」などがあつて幕末における陪臣層の動向を知ることができる。柏村家自身については歴代の事績記録がある。

37 岡田家文書

萩市平安古 重富千束 原蔵
寄贈 昭和34年7月 四六六
旧萩藩士岡田家の開作地関係史料。文化年間、岡田氏は吉田宰判宇津井・松屋村の歩戻開作を購入した。これら開作地の地下請状、前積状、絵図、築立一件記録等が中心である。また文政・天保期にかけては小郡宰判台道村遠崎・深溝村・秋穂村における同家の開作地関係の諸記録があり、藩士の開作地獲得の事情、あるいは百姓が領主(岡田)の家来に開作地を売却する例など近世における開作地経営について興味ある史料を含む。

39 桂家文書(右田毛利家臣)

資文堂 藤原正人 原蔵
購入 昭和33年12月 三六四点
桂運平家は一門右田毛利家の大臣である。文書は領主の江戸参府記録・婚礼記録等、領主に関する記録、大身以下所勤付取・加増覚以下、執務、諸臣に関する記録、その他地方史料をも含む。大部分が領主をはじめ家臣にか、わる文書、記録であり、右田毛利の領主支配の一端を把握できる。

40 塩田家文書

東京都世田谷区北沢 塩田世綱 原蔵
寄贈 昭和38年7月30日

塩田家は代々秋穂に住し、地下雇になったのち無給通まで上った萩藩家臣である。近世後半に作事方・普請方を勤めるケースが多かったこと、あるいは同家が秋穂二島で開作を経営したことなどから、大島(小松)・上関(平生)・三田尻(西浦)・小郡(秋穂二島・丸尾崎)・舟木(妻崎)各宰判の普請(開作を含む)関係記録が多いのが特徴といえる。また文化年間から幕末にかけて各宰判役人を歴任した塩田時貞は民政のベテランであったが、その関係からこの時期の史料では町人庄屋の勤功願書や「当島宰判福井紫福両村之内困窮之濫觴附立」「中関魚せり株願書」のような地方の民政経済に関するものが多い。時貞の「日帳」(文化11・嘉永6、三九冊)もそうした点から注目される史料である。

41 清水家文書

光市立野 清水忠俊 原蔵
寄託 昭和40年2月12日 八六点

萩藩家臣清水家は、備中高松城で自刃した武將清水宗治を始祖とし、熊毛郡立野の地を中心に三七〇余石を知行した。また幕末期の当主清水美作は第二奇兵隊の惣督をつとめ、その子清太郎は元治の内訌で自刃している。そのようなことから、毛利

元就・輝元の書状をはじめ幕末期の老臣奉書など、それに軍旗に及ぶ。

42 難波家文書(清水家臣)

東京都東村山市富士見町 黒川隆夫 原蔵
寄託 昭和40年2月12日 約五〇点

難波家は、萩藩家臣清水家の世臣。幕末期の当主難波伝兵衛(野庵)は主家清水美作を補佐して活躍、当時「防長四陪臣」の一人と称せられ、また詩面にすぐれた。書状類のほか、詩稿それに攘夷戦に携帯したと見られる麻布がある。

43 宍道家文書

東京都港区白金台 宍道恒信 原蔵
寄贈 昭和48年3月29日 九八点

宍道家は、出雲松江の豪族に出自をもつ萩藩家臣。家譜などのほか、吉敷郡陶村・阿武郡徳佐村の開作関係の書類も含む。幕末期の当主宍道直記は明倫館にも勤務し、学問文芸に長じ「芝齋」の名で知られるが、その主宰した社中の詩稿類もある。明治期の当主宍道恒樹は、晩年宮内省図書寮に勤め、また桂太郎とも親交のあったことから、その文芸日誌「向山小稿」などのほか、桂太郎の書簡一〇数点がある。東京都国立市の甲野綾子氏、および西多摩郡五日市町の片山迪夫氏を介して寄贈がなされた。

44 奈古屋家文書(徳山毛利家臣)

下関市丸山町 奈古屋晴夫 原蔵
寄託 昭和45年6月18日 五八一点

奈古屋家は系図によると大江広元弟幸貫の子時貫を始祖として毛利氏を称し、永正二年芸州へ下り大内氏に仕えたが、大内氏滅亡後の毛利与三元賀の時に毛利元就旗下に降って奈古屋氏を称した。元賀の孫元忠の時から徳山藩主毛利就隆に仕え、代々その家老職を勤めた家柄である。奈古屋家文書の内容は歴代家譜・書状および徳山家臣関係書状が多い。特に徳山毛利家分限帳は寛永五年から元文三年までのものがそろっている。

45 日野家文書

宇部市沖宇部 日野稔彦 原蔵
寄贈 昭和33年4月18日 一四一点

元禄元年以来長州藩の藩医を代々勤めた日野家は、宗春時代が幕末明治期であったため、宗春関係の史料が大部分である。そして文書記録類の外、検温計・秤なども残されている。日野家の御厚意で当館に一切の史料を寄付されたことについて、昭和三十八年八月七日付で紺緞褒章が贈進された。

46 三浦家文書

東京都杉並区上高井戸四丁目一七八九 三浦重孝 原蔵
寄託 昭和35年8月13日 四五四点

三浦家は桓武平氏の流れで、建久八年重経のとき鎌倉幕府より、仁保庄および恒富保の地頭職に補任せられて以来、仁保を根拠として連綿した周防の名族である。時によって平・平子・仁保とも称した。伝来の文書は、平子氏本領相伝重書案以下一五八点と系図、三浦末家の文書二三点(以上一八二点大日本古文書所収)、ならびに近世文書二七二点などで、数少ない中世鎌倉期の文書を蔵する貴重な存在である。なお本文書は山口県文書館設置後最初の収蔵(寄託)文書でもある。

47 右田毛利家文書

防府市右田 毛利祥允 原蔵
購入 昭和35年3月31日 三九三点

右田毛利家は鎮西奉行天野遠景を初代とする名族で、安芸国米山城主天野元定の時に毛利元就の七男元政を元亀元年に養嗣子とし、慶長五年熊毛郡三丘に移封、寛永二年にその子毛利元俱が更に佐波郡右田に移封した毛利氏一門第二席家老の家柄である。知行高一万六千石余
右田・小野・牟礼等知行

当家文書の内容は先祖天野氏関係家譜の外、右田移封以後の領内支配文書・絵図類が多い。中でも「右田毛利家十二冊記録」(防府史料第八・九輯、昭和三九・四一年刊)は知行地支配を知る好史料である。なお、「永田秘録(一三三冊)」は「萩藩閥閥録」の編者永田政純の集成本で、中世史料を収録した貴重書である。

48 村上家文書(右田毛利家臣)

防府市大字田島一九六五の一 村上富人 原蔵

寄託 昭和47年2月8日

二八件

この村上家は右田毛利家の家老村上家の分家であって、元禄十二年に本家からの自立が許可されている。史料内容は同家の系図類、相続に関する申渡書類、馬術免許状、それに明治以降の周陽学舎に対する寄付金の感謝状や受領書などが含まれている。

49 村上家文書

防府市右田 毛利宗祥 原蔵

購入

五七件

能島村上水軍として著名な寄組(御船手)村上家の戦国期～藩政期の古文書を多数収める。戦国期文書は、毛利家や諸侯からの書状等も含まれ『萩藩閩閩録卷二二』に収録されたもの外にも数十通あり、保存も良い。藩政期には、村上家は屋代島(大島郡)を給地として与えられており、御配地坪付や開作関係文書類が多数、他に村上水軍の伝書・絵図などもある。

50 山県家文書(阿川毛利家臣)

豊浦郡豊北町阿川 山県一良原蔵

寄託 昭和12年11月25日 一一五点

山県家は一門阿川毛利家の筆頭家老の家である。「御家米分限帳」のように、阿川毛利家の家職を示す史料が多くあり、同家の文書が散逸した現在では、同家関係のことを知り得る唯一の史料群である。この中には、毛利就根の自筆の書簡等も多く含まれており、相州防備の出陣記録や、維新期の諸隊の一つである好義隊の記録、山口成器塾の状況を示す記録もある。また明治三年から七年にかけて山口県から出された通達が、「山口諸沙汰記」として三冊にまとめられている。

51 吉敷毛利家文書

糸永健次郎 原蔵

寄託 昭和39年3月 六一件

小早川秀包を祖とする一門吉敷毛利家に伝わる古文書。系図類、輝元・秀包らの書状、赤穂義士関係文書、家中法令・良城兵隊関係、その他書状類多数。

52 山田家文書

防府市右田 毛利宗祥 原蔵

購入

一〇八件

寄組山田家に伝わる戦国期～藩政期の古文書・記録類を多く収める。保存状況も良い。戦国期古文書は毛利元就・隆元・輝元の判物等、『萩藩閩閩録卷三二』に収録されているもの外、給地の打渡坪付状等。藩政期のものとしては、各種の系図・譜録、多数の書状類、開作関係文書、給地打渡坪付等である。

53 山内(首藤)家文書

大分市田ノ浦五組 山内陸郎 原蔵

寄託 昭和39年1月13日 五七三点

山内家は藤原の出で、鎌倉山内庄に住した故をもって氏とした。俊通は源頼義の郎党となり、また義家の室にその女を入れるなど源氏と密接な関係にあった。のちに子孫備後国に転じ、大内氏と交渉を持ち、さらに毛利氏に属するに至った。山内家の文書は文徴と題し、甲戌の順序を付して装幀されており、これが二六巻、外に古譜一巻とからなり、承久三年関東下知状以下五六七点、系図八種、一族署判、毛利家分限帳山内氏抄など、本文書も数少い中世鎌倉期のものとして貴重な存在である。何れも大日本古文書所収。